

卒業生へ贈ることば

兼城小学校 校長 城間 優

兼城小学校の第141期生のみなさん、卒業おめでとうございます。

入学した頃は大きく思えたランドセルも今では、小さく感じていることでしょう。みなさん一人一人が小学校の6年間で心も体も大きく成長した証でもあります。この2年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響で休校などもありましたが、そのような中にも多くの学校行事や文化活動、スポーツ大会等で大活躍した姿は兼城小学校の誇りです。同時にみなさんを支えてくれた家族や地域の方々、先生方に感謝の気持ちは忘れないでください。

兼城小学校を卒業するみなさんに、「艱難辛苦汝を玉にす」ということばを贈ります。「艱難辛苦（かんなんしんく）」とは、人が生きていくうえで、多くの困難や苦勞、突き当たる壁を意味します。「玉」とはそれらを乗り越えて、克服して、または様々な経験を経て人として磨かれ、はじめてりっぱな人間となるという意味のことわざです。

社会の変化が激しく、未来の予測が困難で、物事の変化に対応する力が増々求められてきます。皆さんが成人して社会人になるころは、今は存在しない職業に就くことになるかもしれません。そのような中にもあっても、力強く、逞しく、柔軟に「Let's Try」の精神で臨んでください。

進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」という言葉を残しています。

4月からは、いよいよ中学生です。中学校の3年間、常に目標を持ち充実した時間を過ごしてください。そして次への大いなる飛躍を期待しています。みんなで応援しています。